

# 国立天文台の運営費交付金プロジェクト等 Non-Frontier projects etc. in NAOJ

齋藤正雄

**Masao Saito**

国立天文台副台長（財務担当）

Vice-Director General on Finance

# 国立天文台のプロジェクト Projects in NAOJ

(国立天文台組織運営規則による)

- 国立天文台のプロジェクトとは以下のとおり
  - C：共同利用などの運用段階にあるプロジェクト
  - B：天文台として実現を目指して建設を進めているプロジェクト
  - A:小規模プロジェクトとして認定されたもの
- その他にセンター、科学研究部がある

**赤：フロンティア、青：他機関が主、**  
**黒：運営費交付金（運交金）**

|          | プロジェクト名                    |
|----------|----------------------------|
| C        | 水沢VLBI観測所                  |
| C        | 野辺山宇宙電波観測所                 |
| C        | 太陽観測科学プロジェクト               |
| <b>C</b> | <b>ハワイ観測所</b>              |
| C        | 天文シミュレーションプロジェクト           |
| <b>C</b> | <b>チリ観測所</b>               |
| <b>C</b> | <b>アルマプロジェクト</b>           |
| B        | 重力波プロジェクト                  |
| <b>B</b> | <b>TMTプロジェクト</b>           |
| <b>A</b> | <b>JASMINEプロジェクト</b>       |
| <b>A</b> | <b>RISE月惑星探査プロジェクト</b>     |
| <b>A</b> | <b>SOLAR-Cプロジェクト</b>       |
| <b>A</b> | <b>すばる超広視野多天体分光器プロジェクト</b> |
| <b>A</b> | <b>すばる広視野補償光学プロジェクト</b>    |
| <b>A</b> | <b>ASTEプロジェクト</b>          |

# 運営費交付金とフロンティア予算について

## 国立大学法人支出・収入のイメージ

(支出) 運営費交付金対象事業費（教育研究の確実な実施に必要な支出額）

(収入) 自己収入（授業料、病院収入等）

国立大学法人運営費交付金  
(運営費交付金対象事業費から自己収入を差し引いた額)

## 国立大学法人運営費交付金構成のイメージ（高等教育局国立大学法人支援課所管）

(1) 基幹的な経費

- ・学長裁量経費
- ・設置基準教員給与費等

(2) 成果を中心とする  
実績状況に基づく  
配分

(3) 支援の枠組み

- ① ミッション実現戦略分
- ② 教育研究組織改革分
- ③ **共通政策課題分**

(4) 特殊要因経費  
教職員の退職手当等、  
国が措置すべき義務  
的経費

学術研究の大型プロジェクトへの支援（フロンティア予算）は  
「③共通政策課題分」の事業区分の一つ

### 運営費交付金（(1)、(2)）

使途が特定されない

中期目標期間中は、減少しつつあるが一定額の措置が決まっている

係数による一定額の減額（同一中期目標期間は同一の運営費交付金算定ルール）、活動実績などの評価による再配分あり。

人件費、天文シミュレーションプロジェクト、天文データセンター、ネットワーク経費等、天文情報センター、水沢VLBI観測所、野辺山宇宙電波観測所、NAOJフェロー、先端技術センター ほか

### フロンティア予算（(3)の③の一部）

使途が特定される（当該プロジェクトに限定、フロンティア予算内でもプロジェクト間の流用は不可）

毎年度概算要求が必要、所要額の要求が可能（増額要求が可能）

新規プロジェクトの措置に当たっては、学術審議会の審査・ロードマップへの掲載が必要

すばる、アルマ、TMT

※ ミッション実現戦略分、教育研究組織改革分、特殊要因経費については、使途が限定されている。

※ フロンティア予算は、国立大学法人運営費交付金（高等教育局国立大学法人支援課所管）のほかに、国立大学法人先端研究推進費補助金（研究振興局大学研究基盤整備課(旧学術機関課)所管）（上記イメージの外数）とで構成される。

# 第3期中期目標期間の運交金の推移

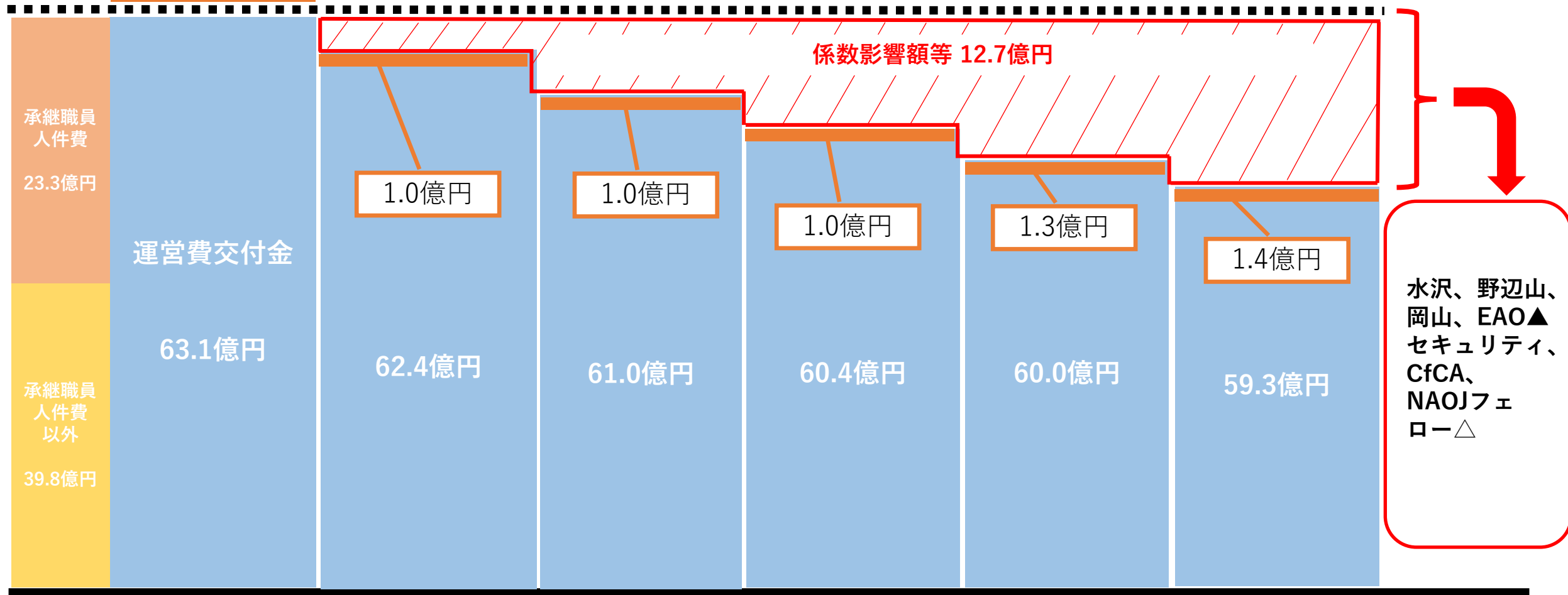
中目期間初年度      中期目標期間の進行      中目期間最終年度

2016予算      2017予算      2018予算      2019予算      2020予算      2021予算

【収入】

第3期中期目標期間中（FY16-21）の運営費交付金は、年1.6%の機能強化促進係数がかかっていた。  
FY21はFY16に対して3.8億円減少しており、第3期中期計画期間中の削減累計額は12.7億円である

機能強化経費0.5億円

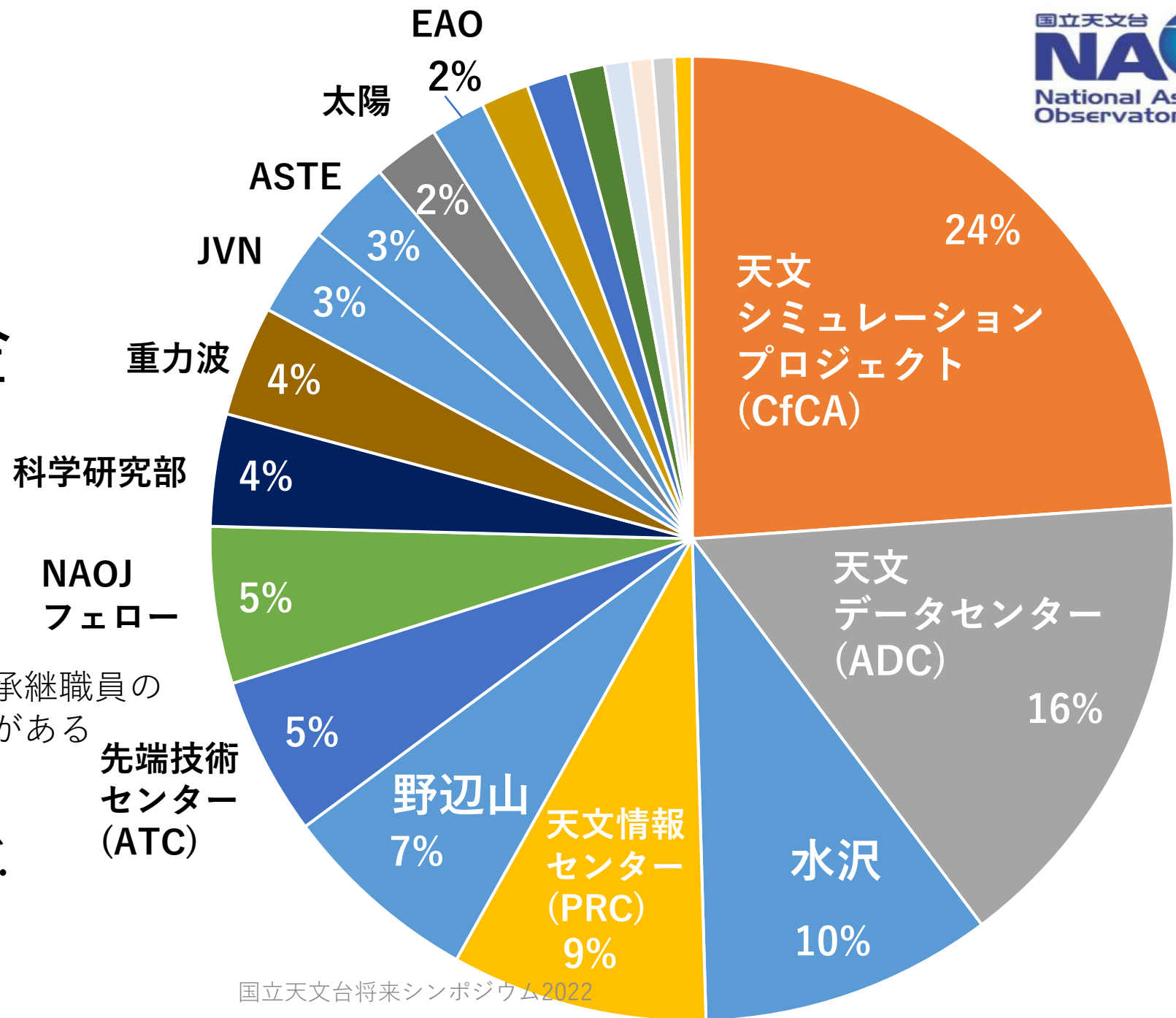


# 2022年度 運営費交付金

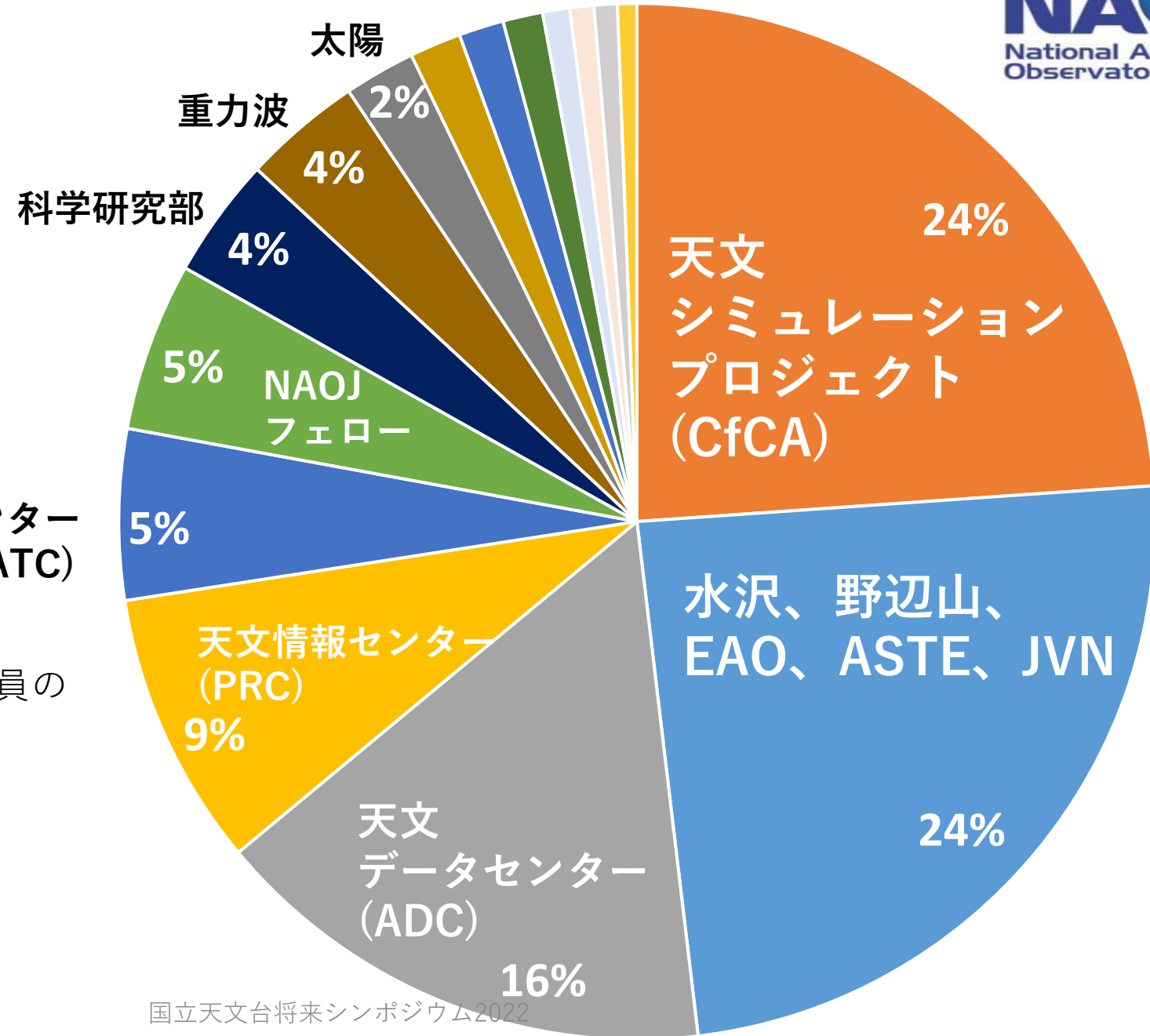
CfCA、水沢、野辺山は  
電気代含む

執行という意味ではさらに承継職員の  
人件費や予備費も見る必要がある

注) 運営費交付金59.4億円から、  
承継職員等人件費、事務部・  
情報セキュリティ経費等を  
除外した、19.3億円の内訳  
を掲載



# 2022年度 運営費交付金



先端技術センター (ATC)  
CfCA、水沢、野辺山は  
電気代含む

執行という意味ではさらに承継職員の  
人件費や予備費も見必要がある

注) 運営費交付金59.4億円から、  
承継職員等人件費、事務部・  
情報セキュリティ経費等を  
除外した、19.3億円の内訳  
を掲載

2022/12/7-8

国立天文台将来シンポジウム2022

# 国立天文台プロジェクトの成立

## Background of Projects in NAOJ

- プロジェクト制の始まり（2005年1月号 国立天文台ニュース）
  - 法人化直後に始まった。
  - 萌芽的プロジェクトとして育成を図るAプロジェクト室（7つ、うち新規4）、予算を得て建設途上のBプロジェクト室（3つ）、施設として完成し運用中のCプロジェクト室（7つ）を定めた
  - 全台の基幹インフラでもある3つのセンターを再定義、研究部も創設した
  - これらはすべて毎年、外部委員を含めた研究計画委員会で評価・改廃の審議を受け、また財務委員会で予算配分の審査を受ける
- プロジェクトの当初の理念（2021年1月号 天文月報）
  - プロジェクトというのはミッションがあるんです，目的があるんです．寿命があって，終わったらなくなる．．．寿命があるといっても自己改革をして，新しいミッションが生み出せたらそれは継続する。
- 以下はフロンティア事業（すばる2、アルマ2、TMT）以外の運交金プロジェクト、センター、研究部について議論する

# 国立天文台プロジェクト

## Projects in NAOJ

- プロジェクトとは、獲得すべき目標と有限な期間の両方が定義された業務である
- 年度目標は設定しているが、既存プロジェクトの獲得すべき目標や期限が文書で定められていないものがあった。
- 当初の目論見と違い、近年、毎年外部委員を含めた研究計画委員会（廃止）で評価・改廃の審議を受けることはなかった
- ただし、運交金プロジェクトは毎年、財務委員会で予算配分の審査を受けている
- 過去にはMIRA プロジェクト (Mitaka optical and Infrared Array)、野辺山太陽電波観測所、岡山天体物理観測所などが終了した

# 運交金プロジェクト

## Non-frontier projects (Management expense grants projects)

- 前執行部が将来の天文学の新展開を起こすために2018.8にAプロジェクトの申請方法や位置づけを変え、運交金を使う既存プロジェクトについても幹事会で審議を行うこととした
- 前執行部が獲得すべき目標と有限な期間を定めるために、Aプロジェクト申請受付、審査を実施し、Scientific Goals and Missionを定め、国立天文台のホームページで公開した
- さらに、承認された運交金プロジェクトについては期限内の活動を定めたProject Planを作成している
- 期限を迎えるプロジェクトについては、これからの獲得すべき目標と有限な期間を提案し、延長審査に基づき延長の可否を幹事会、企画会議で審議する
- その際に重要なインプットとなる現在までの評価に関しては台外委員が過半数を占めるプロジェクト評価委員会の国際外部評価が主導して実施する
- センターおよび科学研究部はAプロジェクト申請の対象外であった

# 運交金プロジェクトの運用

## Running Projects in NAOJ

- プロジェクトにはPrimary Science Goalsを実現するための活動を行い、審査の過程で定められたおよび台長から設定されたAction Items、をcloseする活動を行っている
- 人事(Staffing)
  - グループ長があらかじめ提案した人員で活動をすすめている
  - 人事要求は企画会議に提案され、認められると運営会議で審議される
- 予算(Budget)
  - プロジェクト等は前年度に翌年度の予算申請をする。財務委員会で査定され、幹事会議、企画会議で審議される

# 国立天文台プロジェクトの将来

## Future Projects in NAOJ

- プロジェクトの将来を審議する母体は以下の通り
  - 国立天文台企画会議規則：会議は、次の各号に掲げる事項について審議する。
    - プロジェクト室及びセンター等組織の設置改廃に関する事項
  - 国立天文台幹事会議規則：会議は、台長の求めに応じ、次の各号に掲げる事項について審議する。
    - 企画会議から提案された事業運営に係る以下の重要事項
      - プロジェクト室及びセンターの設置改廃に関する事項
  - 自然科学研究機構運営会議規程
    - 運営会議は、研究教育職員の人事等、それぞれ当該機関の運営に関する重要事項で、当該機関の長が必要と認めるものについて当該機関の長の諮問に応じる。

# プロジェクトの縮小や改廃手続き

## Shrink or termination procedure of Projects

- プロジェクトには期限が決まっている。期限を迎えるにあたりもし縮小や改廃を行う場合は以下のような手続きを踏む必要があると考えている
  - 幹事会議における延長審議、企画会議、運営会議での議論
  - コミュニティへの説明、議論
  - プロ長やプロジェクトメンバーへの説明
- 現在議論中の国立天文台のサイエンスロードマップから国立天文台実施計画へ落とし込むときに上記手続きを経ることも考えられる。

延長審査のインプットは国際外部評価と  
新科学目標と更新したプロジェクト計画書

将来計画に関わることをため、当然コミュニティとの議論が必要であり、  
本シンポジウムもその議論の場である

# まとめ

## Summary

- 第3期の運営費交付金は減少が続いていたが、主として既存プロジェクトの効率化で乗り切った
- 第4期も1%の係数かかるが、様々な手段で減少を食い止める努力をする
- 運交金を使ったプロジェクトはScientific Goals and Missionを策定し、獲得すべき目標と有限な期間を設定、公開している
- 新規プロジェクトの立ち上げ手続きはあるが、運営費交付金の制約により、外部資金で実施するか、運交金プロジェクトを大幅縮小や終了などしないと立ち上げられない状況である。